

目は心の泉

八潮市立松之木小学校

校長 日暮 恭明



新緑が鮮やかな季節となり、葛西用水にも大きな鯉や鴨のつがいが元気よく泳ぎ回る姿が見られるようになりました。

毎朝、児童の登校指導をしていると、大きな声で挨拶してくれる児童がいます。遠い所から聞こえるような大きな声で挨拶してくれる児童もいます。そのような児童や登校班には、「合格！」とか「上手な挨拶！」などと賞賛しています。児童から挨拶してくれることも素晴らしいことですが、もっと素晴らしいなと思う

のは、私の顔を見て挨拶してくれる児童がいることです。もちろん交通事故などに合わないよう気を付けながらではありますが、一瞬、私と顔を合わせたり、目を見てあいさつしてくれる児童がいます。近くにいる児童でも、遠くにいる児童でも、声が必要な児童でも、声が小さい児童でも、目を見てあいさつしてくれる児童がいることは、とても誇らしいことです。

「目は心の窓」「目は口ほどにものを言う」などと言われます。このことが本当なのかを実験した人がいたようです。この学者によれば、人と人とのコミュニケーションにおいて、言語情報が 7%、聴覚情報が 38%、視覚情報が 55%のウエイトで影響を与えるという法則が見出されたようです。つまり、言葉だけでなく、声のトーンや話すスピードを意識するだけでもなく、見えるかたちで伝えようとする、相手に気持ちがより伝わりやすくなるということが解ったということです。

授業の最初と終わりには、必ずあいさつします。全員がきちんと起立し、先生と児童が目と目を合わせます。先生は、ひとり一人の目を見て、児童の今の気持ちを読み取ります。時には、先生からアイコンタクトを送る場合もあり、その先生からのアイコンタクトに気付けて律する児童もいます。このような授業最初のわずかな時間に行われることが、1日の生活や45分間の授業に大きく関与することから、本校ではとても大切にしたいと思っています。

「つたわるよ めとめをあわせて はなしたら」

(平成20年度「児童福祉週間(5/5~5/11)」標語最優秀賞作品)

「あいさつは 心をつなぐ おまじない」

(令和5年度「児童福祉週間(5/5~5/11)」標語入選作品)

新年度がスタートしてから一か月経った本校の児童たちは、とても頑張っています。「目の前で起こる小さな瞬間を大切にしていこう」という始業式での話が、本校の児童の気持ちに表れているものと思います。ここまで頑張れたのだから、次は「目と目を合わせる」ことも意識してみましょ。みなさんの目には、頑張ろうとする気持ちや一緒に創り上げようとする気持ち、友だちや地域の人たちを幸せにできるパワーなど、湧き出るたくさんのエネルギーがあります。そのみなさんの大切にエネルギーがある目を使って、更に自分の可能性を追い求めてみましょ。